

学校 教育 目標	『活気ある学校』 ○たくましく、自らの生き方を創り出す力を育みます(知・体) ○いのちを大切にすると、社会の一員としての自覚を育みます(徳・公) ○伝統を大切に、活気ある学校をつくります(開)				
学校 概要	創立 80 周年	学校長 鈴木 薫	副校長 久保 友子	2 学期制	一般学級: 21 個別支援学級: 5
	児童生徒数:	785 人	主な関係校: 金沢小学校・文庫小学校・八景小学校・釜利谷東小学校・能見台南小学校		

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	金沢中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
〈言語能力〉 〈問題発見・解決能力〉 〈持続可能な社会の創造に貢献する力〉	金沢中 文庫小 金沢小 八景小 釜利谷東小	○「コミュニケーション能力」と「課題解決のために協力する力」の育成 ○他人を思いやり、地域社会に貢献できる児童生徒の育成 ・小中合同授業研究会等において、『横浜StudyNavi』を活用し、児童生徒の状況を共有し、「目標に向かうための力」、「他者と協働するための力」を育成する授業のあり方について研究をすすめる。 ・「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」等を小中で共有し、児童生徒にとって連続した特別支援教育となるようにする。 ・地域に『ありがとう』と言える児童、地域に『ありがとう』と言われる生徒を育成する。

中期 取組 目標	○各教科等において、ICT等を活用し、生徒が「メタ認知」できる工夫と「知的好奇心」を刺激する授業づくりの研究をすすめる、生徒の主体性を育む授業を目指す。グループワークやペアワークを取り入れ、場の工夫をし、役割やルールを設けて「知的謙虚さ」と「共感性」を育む授業展開を目指します。 ○『横浜StudyNavi』を活用し、自己の生活や学習状況を振り返り、自分の課題を発見し、解決する方法を見出す力を育みます。 ○一人ひとりの個性を認め、『みんな違ってみんないい』と意識できる生徒を育成します。 ○生徒の意見やアイデアを取り入れ、よりよい学校生活を送ることができるように工夫します。 ○国際交流やボランティア活動等に参加し、他者から『ありがとう』と言われる生徒を育成し、創立80周年に向けて地域の『活気ある学校』を実現します。
----------------	--

重点取組分野		具体的取組
知	授業改善	①校内授業研や小中一貫教育推進ブロック授業研を実施する。 ②生徒が主体的に取り組む授業を目指し、「横浜StudyNavi」等のICTを活用しながら、課題を発見し解決する力を育てる。 ③学期末に生徒による授業評価を実施し、集計結果をもとにしながら授業改善を行う。
担当	学習指導部	
徳	人権教育	①子ども自身が人権課題について考える学びを実施する。 ②人権標語を作成し、福祉委員会を中心として人権活動を行う。 ③国際平和スピーチコンテストに向けて全校で作文やスピーチに取り組む。
担当	人権・国際理解教育部	
体	健康教育・食育	①保健体育等の授業活動や、学校行事、放課後の部活動を通して、生徒一人ひとりが成長を感じ、取り組む態度を育てる。 ②栄養や食文化、成り立ちなどの食に関する発信を行い、安全で安心な食に対する知識の充実を図る。 ③学校保健委員会では、健康面の課題について、生徒自らが学び、発信する活動を行う。
担当	保健指導部	
公開	国際理解・国際交流	①サンディエゴPREUSS Schoolとの英語での交流を通して、異文化や多様性の理解を深める。 ②英語での交流を通して、国際的な視点を養い、コミュニケーション力を育てる。 ③様々な国際行事に参加し、体験を通して国際的な広い視野を身に付けさせる。
担当	特活指導部	
いじめへの対応		①毎月いじめ防止対策委員会を実施し、いじめの認知や対応状況について確認し、会議録を職員全体に共有することで、組織としていじめに対応する体制を整える。 ②定期的に生活についてのアンケートを実施し、いじめを含む生活のトラブルに早期に対応できる体制を整える。
担当	いじめ防止対策委員会	
人材育成・組織運営(働き方)		①学年会や教科会、各部会を計画的に運営することによって職員間の情報共有を図るとともに、学校全体の教育活動の質を向上させる。 ②午後12:25分間のハーフの授業を導入することで、生徒の集中力を保ちながら、教職員の負担軽減を図る。 ③メンターチームによる研修を定期的に実施することで、教職員の指導技術の向上を図る。
担当	教務部	
教育DXの推進		①AID「モノグサ」の校内研修を実施し、生徒一人ひとりに合わせて「学習内容」だけでなく「反復回数」や「ヒントの割合」、「難易度」を個別最適化し、生徒がいつでも学習できる環境をつくる。 ②『横浜StudyNavi』を活用し、データを活用しながら、自らの学習の理解や習熟の状況を把握し、日々の学習に生かせるように図る。
担当	教務部	
持続可能な部活動		①部活動の教育的効果や価値を尊重しつつ、横浜市立学校部活動ガイドラインを遵守し、生徒、教職員が心身の健康を維持できるように、適切に休息日を確保する。 ②休日に十分な休息が取れるように、活動時間、遠征距離の見直し、必ずしも参加が必要とは見なされない競技会、文化発表会の参加の見直しを行う。 ③外部人材の積極的活用によって、教職員の負担を軽減し、本来担うべき学習指導、学級・学年指導に注力できる環境を構築する。
担当	部活動顧問会	
特別支援教育		①特別支援教室「ボールスター」の運営にあたり、教職員間で情報共有を積極的に行い、一人ひとりの生徒の実態に応じた支援の充実を図る。 ②個別の教育支援計画・指導計画を関係機関や保護者と連携して作成・見直し、生徒の姿容や課題に応じた継続的な支援を行う。 ③校内研修や事例共有を通じて、教職員全体の特別支援教育への理解を深め、学級経営や授業における合理的配慮の充実につなげる。
担当	特別支援教育部	
地域連携・ボランティア活動		①地域の町内会や自治会と情報交換を定期的に行い、中学生がボランティア活動ができる機会の情報発信を行う。 ②地域の祭礼行事に積極的に参加し、地域社会に貢献する中学生を育てる。
担当	地域連携部	